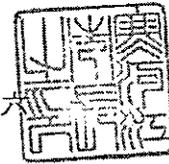


建 第 694 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

寒河江市長 佐藤 誠



今後の道路行政についての意見・提案について

貴職におかれましては、日ごろから道路事業の推進、発展のためにご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成20年 9月19日付け国道企第37号でご依頼のありました標記のことにつきまして、別紙のとおり提出いたします。

地方においては、公共交通機関が十分整備されているとは言えず、住民の移動手段として車の利用が欠かせないものとなっておりますが、幅員が狭隘である道路や自歩道が未整備である道路が多く、住民の安全・安心な生活のため優先的に整備を要する区間がまだ数多くあります。

しかしながら、地方自治体を取り巻く厳しい財政状況のなかで、歩行者の安全確保のための自歩道整備や老朽化した既存の橋梁の安全確保のための維持補修費用も増加しており、緊急を要する道路整備にも着手できない状況にあります。

そこで、①地域間の広域的な交流や連携を促進するため、地方への道路整備に対する財源の充実、②道路・橋梁等の維持補修に対する補助金制度の拡充及び十分な財源の確保について要望します。

○現状

山形自動車道や東北中央自動車道などの高速交通網の整備による交流圏域の広域化が図られており、国・県道については、バイパス整備や4車線化整備等による山形広域都市圏や周辺市町村との連携が強化されている。

サービスエリアにETC専用のスマートICが本格導入され、通行料金の割引や移動時間の短縮、渋滞の回避等の利便性により、県内外利用者の増加、広域的な観光振興や通勤、運送、救急患者の搬送等、利用者の拡大が図られている。

高速道路や広域的道路網との連携により地域活性化を図るため、市街地を形成する循環道路の整備など市街地内の道路ネットワーク形成に努めている。

市街地内の生活道路は狭隘な箇所が多く、特に冬季の安全な交通確保に苦慮している。

○課題

○都市計画道路の整備促進

本市中心市街地を貫通する幹線道路整備は商業ゾーンとして再整備を図るうえで、また、広域的な道路網の確立と市街地相互の円滑な連結、交流をするうえで重要な課題となっている。

○住民が日常的に使用する道路の整備促進

住民が日常的に使用する道路は自歩道が未整備の区間や幅員が狭隘で通行不便な箇所など利用者の安全安心を考慮すると早急に整備する必要のある区間が数多くある。

②-2 地域の目指すべき将来像

1. 地域の産業活性化につながるみちづくりの推進

単に通行するためだけの道路でなく、まちなみ景観と一体となり、商店街の活性化など地域の産業活性化につながるみちづくりが実践される。

2. 安全安心なみちづくりの推進

生活道路や通学路においても歩道が整備され、冬季においても快適で安全な道路が整備される。

3. 道路ネットワークの強化

市街地内の循環道路などの幹線道路や通勤時の渋滞が慢性化している広域幹線道路の整備により道路網のネットワーク強化が図られる。

4. グラウンドワーク等による官民一体の道路管理

フラワーロードや花いっぱい運動などグラウンドワークによる官民一体となった協働の道路管理が実践され、市民が道路に対して愛着心を有し、美しい景観の道路が保全される。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

山形県寒河江市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
<p>道路のネットワークによる快適な生活の促進と橋梁の長寿命化</p>	<p>都市計画道路 柴橋日田線の整備</p> <p>平塩橋の整備</p>	<p>街並み景観と一体となった道路整備により、沿線商店街の活性化を図るとともに、交通渋滞の解消と利便性の向上が図られる。</p> <p>狭隘で老朽化している最上川にかかる平塩橋の整備について、既存の橋梁を活用しつつ二車線化を図り、朝日町や大江町からの高速道路へのアクセス向上を図るとともに、最上川ふるさと総合公園、寒河江サービスエリア、民間施設が一体となったチェリークアパークの利便性と集客力の向上を図り、地域の活性化に資する。</p>	<p>沿線住民のまちづくり協議会による住民参加のまちづくり</p>